

I. 子どもと一緒にささげる礼拝の可能性  
(同盟・東京宣教区CS教師研修会 鞭木由行)

A. 信仰継承か、真の礼拝か

1. 礼拝の本来あり方
2. 結果としての信仰継承
3. 私のリヴァプールでの経験

B. 親子と一緒に礼拝すべき三つの聖書的理由

1. 第一は主イエスの模範 (マルコ10章13-16節より。ヨハネ6:9、マタイ18:2-5、19:13、14等)

2. 第二は神の契約 (子どもたちは救いの契約の中にある)

- a. 神のご計画としての信仰継承
- b. 旧約聖書の場合: 各契約における子供の救い

(1) ノア契約 (創世記6章18節、ヘブル11章7節)

(a) 創世記6章18節 「しかし、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、息子たち、妻、それに息子たちの妻とともに箱舟に入りなさい。」 創世記7章1節 「あなたとあなたの全家は、箱舟に入りなさい。」 7節 「ノアは、息子たちや自分の妻、それに息子たちの妻とともに、大洪水の大水を避けるために箱舟に入った。」

(b) ヘブル11章7節 「信仰によって、ノアは、まだ見ていない事柄について神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって、世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました。」 家族は当然のように、ノアと一緒に救われる。

(2) アブラハム契約 (創世記 15:5, 17:7, 12)

(a) 創世記 17:7 「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。」 神の契約とは、時代を超えたもの。その子孫を通して成就していくべきもの。一代で終わるものでは決してない。この確信を持つことが重要である。

(3) モーセ契約 (申命記5:2-3、出エ20:7)

(a) 申命記5:3 「【主】はこの契約を私たちの先祖たちと結ばれたのではなく、今日ここに生きている私たち一人ひとりと、結ばれたのである。」

(b) 出エ20:7 「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」 ああ

(4) ダビデ契約 (第2サムエル 7:12-13,16, 詩篇89:3-4)

(a) ダビデ契約の場合、著しい特徴は、神がダビデのために「家」、つまり王朝を建てることです。「あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」 (第2サムエル7:16)

(b) 詩篇89:3-4 「わたしは、わたしの選んだ者と契約を結び、わたしのしもべダビデに

誓う。わたしは、あなたの裔を、とこしえまでも堅く立て、あなたの王座を代々限りなく打ち立てる。」

(5) まとめ

c. 新約聖書の場合：新しい契約のもとでの子ども

(1) ペテロの説教（使徒2：39）

(a) 使徒2：39で、ペテロは、こう言っています。「この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたち、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人々ならだれにでも、与えられているのです。」

(2) パウロの説教（使徒16:31,34）

(a) 「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。・・・彼とその家の者全員がバプテスマを受けた。・・・神を信じたことを家族とともに心から喜んだ。」（使徒16:31,34）

(3) 片親だけがクリスチャンの場合（1コリント7:14）

(a) 片親だけがクリスチャンの子供も、両親がクリスチャンの場合も区別はありません。パウロはこの問題について何の迷いもなくこう答えています。「なぜなら信者でない夫は妻によって聖なるものとされており、また、信者でない妻も信者である夫によって聖なるものとされているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れていることとなりますが、実際には聖なるものです。」（1コリント7:14）

(4) まとめ

d. 結論

(1) このように契約が家族を念頭においたものであるなら、子供も幼いときから神との契約に入っているのです。信仰の継承を考えるに当たって、私たちはこのことを確認しておくことが必要です。クリスチャンホームの子どもが救われることは、当然であり、神の御心なのだ。そのこと分かるならば、もっと、大胆に祈り求めることが出来るでしょう。私たちが、祈る以上に神ご自身が、子どものことを覚えていてくださるのです。

(2) このことから、私たちはさらに礼拝について、考えることができるでしょう。礼拝は救いの契約に入った者たちの感謝の行為です。子どもたちもこの契約の中にあるので在れば、子どもも一緒に礼拝すべきだと言えるのではないのでしょうか。契約の相手である民に向かって、神は礼拝すべき事を命じました。モーセの十戒の第一から第4まで、神を如何に礼拝すべきか。契約自体が礼拝を求めています。

3. 第三は、聖書に見る礼拝の実例です：聖書では親子は一緒に拝している

a. 旧約聖書（申命記31：11-13, 出エ10：10, ヨシヤ8：35, エズラ10：1, 第2歴代誌31:15）

(1) では、聖書はこのことについて何をおしえているのでしょうか。わたしがこの問題を考えるようになり、聖書を調べていくに従って、私のこの確信はますます強まりました。私は聖書の時代から同じような礼拝が行われていたことに気が付いたからです。そこで、次は、聖書的根拠を紹介したいと思います。

(2) 申命記31：11-13 「イスラエル全体が、主が選ばれる場所に、あなたの神、主の前に出るためにやって来たとき、あなたはイスラエル全体の前で、彼らの耳にこのみおしえを読んで聞かせなければならない。12 民を、男も女も子どもも集めなさい。あなたの町囲みの中にいる寄留者も。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばを守り行うようにするためである。13 これを知らない、彼らの子どもたちもこれを聞き、あなたがたがヨルダン川を渡って所有しようとしている地で、彼らが生きるかぎり、あなたがたの神、主を恐れることを学ばなければならない。」

(3) ヨシュア8：35、「モーセが命じたすべてのことばの中で、ヨシュアがイスラエルの集会全体、および女と子どもたち、ならびに彼らの間で生活する寄留者の前で読み上げなかったことばは、一つもなかった。

(4) エズラ10：1 「エズラが神の宮の前でひれ伏し、涙ながらに祈り告白しているとき、男や女や子どもの大会衆がイスラエルのうちから彼のところに集まって来た。民は涙を流して激しく泣いた。」

(5) 第2歴代誌31章には3歳以上の男子への言及がある。

(a) 11節から19節は、ヒゼキヤの時代に神殿でのささげ物が均等に分配されたことを記している。そこには、3歳以上の祭司の子どもたちにも「任務」が割り当てられていたことがわかる(16)。そして、18節には幼児が系図に載せられた。

b. 新約聖書(使徒の働き1章14節、エペソ6：1、4、コロサイ3：20)

(1) 初代教会の模範(使徒の働き1:14)

(a) 使徒の働き1章14節。さらに、使徒の働きにも、て参り来ますが、きょうは、ちょっと、おもしろい例を紹介したいと思います。使徒の働き1章14節です。(読む)ここで、ある写本には、「女たち」だけでなく、「女たちや子供たち」と書いてある。それは、21章5節にもでてきます。それは、勿論、元々の聖書本文にはありませんでしたが、しかし、この当時、ごく初期に、書き加えられたものであり、子どもが初代教会において、お母さんと共に参加していたことを私たちに教えてくれる例です。

(2) パウロ書簡での証言：礼拝に参加している子どもへの呼びかけ(エペソ6：1、4、コロサイ3：20)

(a) 子どもたちよ。主にあつて自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。

(b) 子どもたちよ、すべてのことについて両親に従いなさい。それは主に喜ばれることなのです。21 父たちよ、子どもたちを苛立たせてはいけません。その子たちが意欲を失わないようにするためです。

(c) 長老から、選ばれた婦人とその子どもたちへ。私はあなたがたを本当に愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々はみな、愛しています。(2ヨハネ13)

c. 使徒教父時代。

(1) 総督プリニウスによる証言

(2) またカルタゴの司教キプリアヌスは子どもを聖餐式につれてきた母親について記している。

- (3) 3世紀中頃には6世紀の終わりまでに書かれた多くの文書は両親が子どもたちを礼拝に連れてきたことを告げている。礼拝に出席していたばかりか、様々な役割を担っていた。

#### 4. 結論

##### C. 親子と一緒に礼拝するとはどういうことか

1. 子どもの礼拝に親が参加するというではありません。
2. 親子が部分的にあるいは物理的に礼拝を共有するというでもありません。
3. 大人の礼拝に子どもが参加するというでもありません。
4. 大人と子どもの区別のない、一つの礼拝を主にささげるということです。

##### D. なぜ子どもは礼拝から閉め出されたのか

1. こどもにはCS礼拝がある：教会学校の問題点
2. 退屈な礼拝は子どもに有害である：礼拝のあり方の問題
3. 子どもは礼拝の妨げとなる：不可欠の要素
4. 子どもには説教が分からない：大人の誤解

##### E. 子どもと一緒に礼拝をささげる実際

1. CS礼拝は止める
2. 主日のプログラム全体の再構築：礼拝と教育
3. 子どものための要素を入れる
  - a. 子ども賛美
  - b. 子ども信仰問答
  - c. 礼拝クイズ

##### F. 残された今後の課題

1. CSだけで帰る子どもたちをどう導くか。新たなる伝道プログラム
2. 子どもへの伝道はどうするか。
3. 充実したCSができないのではないか。
4. クリスマンホームの子どもたちのための教材が必要である。

##### G. 最後のまとめ

1. 子どもと一緒に礼拝することは、本来の礼拝の在り方を取り戻すことである。
2. 子どもと一緒に礼拝することは、信仰の継承を助ける。
3. 家族が全体として主日を守れる。
4. 家庭礼拝の重要性